

＜第 89 回 HSE セミナー 講演内容＞

■テーマ：「介護保険から 17 年、地域介護の現状」～介護に於いて「働く」とはなにか？～

■講師：加藤 忠相 氏 （株式会社あおいけあ代表取締役 慶應義塾大学非常勤講師）

「病院から在宅へ」という指針の元に、地域医療が発展してきた。同時に、生活を支えるために介護事業が成長してきた。しかしながら医療保険同様に介護保険も財源が枯渇している。また、増えすぎた事業者により市場が飽和へと向かった。介護は来る 2025 年、地域を支える器といえる。生活を支えなくては、在宅療養は夢のまた夢である。医療同様に大きな課題は「雇用確保」。一億総活躍プランの中にも「介護離職ゼロ」が掲げられているが、夢や誇りがなければ仕事は続かない。今回は地域を支える介護のあり方を見ると共に、そこで働く従業員の意識を考えたい。

＜講師紹介＞

大学卒業後に横浜の特別養護老人ホームに就職。介護現場の現実ショックを受け、3 年後退職し平成 13 年に株式会社あおいけあを設立。「グループホーム結」「デイサービスいどばた」の営業をはじめ。平成 19 年より小規模多機能型居宅介護「おたがいさん」を開始。平成 24 年 11 月に「かながわ福祉サービス大賞～福祉の未来を拓く先進事例発表会～」において大賞を受賞。平成 25 年 10 月よりデイサービスを小規模サテライト事業に切り替える。

【主な活動】「おはよう日本」、「特ダネ！」などで取り組みを紹介されるほか、新聞等のメディアや多くの雑誌で特集されている。2017 年公開予定の映画『ケアニン』のモデル事業所。NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」出演。日経ビジネス「次代を創る 100 人」に選出。

.....

■テーマ：「地域共生社会の時代に、自分たちができること！」～みま～もの取り組みから考える～

■講師：澤登 久雄 氏 （牧田総合病院 地域ささえあいセンター センター長）

地域包括ケアシステムは医療・介護事業者の連携だけでは完成しない。地域住民を巻き込んで初めて完成するといえる。色々な自治体が思考錯誤し、地域で「支える」ことを模索している。2025 年まで残された時間はあとわずかである。現実問題として、各自治体によって動きに差があることは事実である。逆に考えると、そういった地域だからこそ薬局が活躍できるチャンスがあるのではないだろうか。全国初の薬局主導の地域包括ケアモデル誕生を模索してみたいと思う。

＜講師紹介＞

平成 20 年 4 月地域の医療・介護事業者に呼びかけ、「おおた高齢者見守りネットワーク」（愛称：みま～も）を発足。現在、協賛事業所・企業・団体は 90 を超える。平成 21 年 8 月。当団体にて「SOSみま～もキーホルダー登録システム」を生み出す。このシステムは、平成 24 年度より大田区サービス「高齢者見守りキーホルダー事業」として移行。65 歳以上の区民全てが利用可能なシステムとなり、平成 28 年 3 月末、登録者は 30,000 名。

平成 22 年 10 月 30 日放送 NHK 「日本のこれからどうする？ “無縁社会”」他出演

.....

■テーマ：「2035 年健康先進国に向けた医療・介護のロードマップ」

■講師：三浦 公嗣 氏 （元厚生労働省老健局 局長/現慶応大学病院教授）

時代のトレンドは「2025 年」となっている。しかしながら 2025 年はゴールではなくスタートに過ぎない。厚生労働省はすでに「保健医療 2035」とさらに 10 年後のビジョンを出している。大事なことは、25 年かけて作り上げてきた「地域包括ケアシステム」が健康増進に向けて稼働するかどうかである。その目指す先は「2035 年健康先進国日本」である。介護保険制度発足の準備からメンテナンス、そして再構築と中心人物となった元厚生労働省老健局局長みずから解説をしていただきたい。そして厚労省の考える「生き残る企業」についても教えてもらいたいと思う。

＜講師紹介＞

昭和 58 年 4 月に厚生省（当時）に入省。その後、川崎市、厚生省健康政策局、薬務局、保健医療局等を経て、平成 12 年 4 月の介護保険制度の施行まで、約 3 年間にわたり施行準備に携わる。同制度の施行と同時に広島県庁に異動し、平成 15 年 8 月に厚生労働省医薬食品局に復帰後は、食品安全部を経て老健局において平成 17 年と 18 年の介護保険制度の見直しに携わる。その後、文部科学省高等教育局、農林水産省等を経て、平成 26 年 7 月から 28 年 6 月まで厚生労働省老健局長。平成 28 年 10 月から現職。